

様式第 9

循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
山鹿市	山鹿市	平成 26 年度～平成 30 年度	平成 26 年度～平成 30 年度

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標	現状 (割合※1) (平成24年度)	目標 (割合※1) (平成31年度) A	実績 (割合※1) (令和元年度) B	実績/目 標※2	
排出量	事業系 総排出量	4,140 t	3,814t (-7.9%)	4,638t (12.0%)	-151.9%
	1 事業所当たりの排出量	1.6 t	1.33t (-17.4%)	2.07t (29.4%)	-169.0%
	生活系 総排出量	9,275 t	8,930t (-3.7%)	9,529t (2.7%)	- 73.0%
	1 人当たりの排出量	133kg/人	128kg/人 (-3.8%)	186kg/人 (39.8%)	-1047.4%
合 計 事業系生活系総排出量合計	13,415t	12,744t (-5.0%)	14,167t (5.6%)	-112.0%	
再生利用量	直接資源化量	t (%)	t (%)	t (%)	%
	総資源化量	2,481t (18.5%)	3,216t (25.2%)	1,881t (13.3%)	-77.6%
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)	MWh	MWh	MWh	-
最終処分量	埋立最終処分量	1,765t (13.2%)	1,593t (12.5%)	1,680t (11.9%)	185.7%

※1 排出量は現状に対する増減割合、直接資源化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量+集団回収量に対する割合を記載。

※2 排出量は実績の割合/目標の割合を記載。再生利用量・最終処分量については、(実績の割合-現状の割合) / (目標の割合-現状の割合) を記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成24年度)	目 標 (平成31年度) A	実 績 (令和元年度) B	実績/目 標※3	
総人口	56,118	52,926	51,324	—	
公共下水道	汚水衛生処理人口	19,530	19,583	20,180	103.0%
	汚水衛生処理率	34.8%	37.0%	39.3%	106.2%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口	13,107	13,390	12,105	90.4%
	汚水衛生処理率	23.3%	25.3%	23.5%	92.8%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口	10,030	9,103	6,603	72.5%
	汚水衛生処理率	17.9%	17.2%	12.8%	74.4%
未処理人口	汚水衛生未処理人口	13,451	10,850	12,436	114.6%

※3 (実績の割合-現状の割合) / (目標の割合-現状の割合) を記載

2 各施策の実施状況

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再使用の推進に関するもの	11	マイバックスの運動の推進	山鹿市	市民、事業者、行政で組織する山鹿市レジ袋削減推進協議会を中心にごみの減量化を図る。	H26-H30	市内8店舗(H31.1店閉店)とレジ袋無料配布中止を含むA協定を締結、15店舗とマイバッグ持参呼びかけのB協定を締結。
	12	生ごみの自家処理の推進	山鹿市	生ごみ処理機器設置補助金制度の推進による家庭系ごみの減量化を図る。	H26- H30	H26年度128件(145台)、H28年度70件(77台)、H29年度53件(59台)、H30年度56件(58台)の補助を実施。
	13	環境啓発・教育の充実拡大	山鹿市	環境学習の機会を充実させイベント等を活用しごみの減量化・再資源化の意識啓発を行う。	H26- H30	出前講座を随時実施。H30年度小学4年生向けワークブックを作成。H30、R1年度親子向けエコライフイベントの実施。
	14	集団回収の推進	山鹿市	資源回収団体奨励金制度を推進し、家庭系ごみの減量化を図る。	H26- H30	H26年度70団体に資源回収団体奨励金交付、回収量582.3t。H27年度から奨励金廃止。
	15	分別排出の推進	山鹿市	収集カレンダー、分別辞典を作成配布し分別排出の指導徹底を図る。	H26- H30	収集日程表を毎年2月に全世帯配布。H31年3月ごみの分け方・出し方ポスター及び分別辞典を全世帯配布。
	16	事業者の適正処理に対する指導の強化	山鹿市	事業系一般廃棄物について、分別の徹底、排出ルールの見直しによる搬入量の減量化を図る。	H26- H30	搬入ごみの展開検査を実施。搬入不適物混入の事業所に対し、文書及び訪問による指導を行った。また、事業者向けのマニュアル等を作成し啓発を実施。
	17	ごみ処理費用の適正負担	山鹿市	家庭系ごみ、事業系ごみの手数料の見直しによる搬入量の減量化を図る。	H26- H30	自己搬入ごみを有料化。R1年10月、指定ごみ袋料金の改定(大サイズ4円値上げ、中サイズ2円値上げ)。
	18	生活排水対策	山鹿市	家庭等から排出される汚濁負荷軽減に向け、合併処理浄化槽整備の推進と広報誌等による啓発活動を図る。	H26- H30	広報誌やホームページに掲載し、工事施工業者へ情報提供をした。

処理体制の構築、変更に関するもの	21	資源ごみ収集の充実	山鹿市	拠点回収や祝日及び休日収集の検討を行う。	H26- H30	検討継続中。
	22	施設整備に伴う分別区分変更等の検討	山鹿市	施設の処理方式の検討に合わせて、分別収集区分の検討を行う。	H26- H30	検討継続中。
処理施設の整備に関するもの	1	(仮称)山鹿市クリーンセンター整備事業	山鹿市	—	H28-H30	既存施設の使用期限満了に伴い、環境センターの建設を行い、H31年4月から稼働を行った。
	2	浄化槽設置整備事業	山鹿市	—	H26-H30	浄化槽設置整備事業により、407基の設置費補助を行った。 (H26 : 118 基、H27 : 101 基、H28 : 85 基、H29 : 52 基、H30 : 51 基)
施設整備に係る計画支援に関するもの	31	(事業番号1)の計画支援業務	山鹿市	—	H26- H30	H26年度に施設整備基本計画、測量、地質調査等 H26-H27年度に生活環境影響調査 H27年度造成設計、基本設計、 H27-H28年度に発注仕様書等作成、事業者選定
その他						

3 目標の達成状況に関する評価

【ごみ処理】

エネルギー回収型廃棄物処理施設整備については、計画どおりに整備できた。

本市のごみ処理の基本方針である4R（「リデュース」「リユース」「リサイクル」「リフューズ」）の推進をするため、分別のマニュアルを作成するなど様々な施策に取り組んできたが、すべてにおいて達成できていない結果となった。今後も山鹿市一般廃棄物処理基本計画に基づき、ごみの発生抑制、資源化、適正処理に向け啓発活動を強化するなどさらに推進し、資源循環型社会の構築に努めていきたい。

○排出量

事業系の排出量の実績（4,638 t）は、事業所数は減少傾向にあるものの大型店舗の進出や福祉施設からの紙おむつの受入れを開始したことにより平成24年度（4,140 t）に比べ498 t増加し、目標（3,814 t）は未達となった。

生活系の排出量の実績（9,529 t）は、世帯数の増加等により平成24年度（9,275 t）に比べ254 t増加し、目標（8,930 t）は未達となった。

○再生利用量

実績（1,881 t）は、生ごみ処理施設（バイオマスセンター）を廃止したことにより平成24年度（2,481 t）に比べ600 t減少し、目標（3,216 t）は未達となった。

○最終処分量

実績（1,680 t）は、平成24年度（1,765 t）に比べ85 t減少したが、目標（1,593 t）は未達となった。

【生活排水処理】

計画期間中の公共下水道における汚水処理人口普及率は、平成24年の34.8%に対し、令和元年度には39.3%と向上しているが、集落排水処理施設については令和元年度実績が23.5%であり、目標の25.3%を下回る結果となっている。個別処理については補助事業等による合併浄化槽の設置を促進しているが、令和元年度実績が12.8%であり、目標の17.2%を下回っている。

公共下水道のように、目標達成できた事業と、達成できなかった事業があるが、未処理人口は減少しているため、引き続き公共下水道、集落排水への接続の推進を図るとともに合併浄化槽の設置促進に取り組んでいきたい。

（都道府県知事の所見）

【ごみ処理】

様々な要因により、いずれの施策についても目標は達成されていませんが、最終処分量（埋立最終処分量）については、平成24年度と比較し、改善傾向にあります。

搬入ごみの有料化や環境啓発・教育の充実のためのイベントの実施など、様々な施策を展開され評価できますが、資源ごみ収集に係る拠点回収方法や分別収集区分については具体的かつ効果的な方策を検討のうえ、実行し、未達成であった排出量の削減に向けた取組みの強化が期待されます。

今後、更に施策を充実し、更なる循環型社会の形成推進に努力されることが望まれます。

県としても、山鹿市の今後の施策を支援します。

【生活排水処理】

山鹿市の汚水衛生処理人口は、公共下水道、集落排水施設等及び合併処理浄化槽等を合わせた令和元年度の目標値 42,076 人に対し、実績値で 38,888 人となっており、生活排水処理施設の整備目標は下回っております。

このような中、公共下水道については、目標を上回るペースで整備されており、山鹿市としても計画的に公共下水道の整備の取組みを行っているものと評価します。

他方で、個別処理については、目標の 17.2%に対し、実績が 12.8%となっており、目標を大きく下回っていることから、今後補助事業等による合併処理浄化槽への転換を促進していただきたい。